2026(令和 8)年度 豊橋創造大学短期大学部 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■幼児教育・保育科

外部評価者：愛知県私立保育園連盟会長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
(1)入学者の受け入れについて １．適切である アドミッションポリシーに基づき、入学者選抜が適切に行われている。高校生に対しても、オープンキャンパスや高校との連携を通して、幼児教育・保育科での学びや将来の職業を具体的にイメージできる機会が設けられており。保育者を志す学生の受け入れにつながっていると思われる。	少子化や保育人気の低迷の中、入学者数確保については継続的な課題である。そのような中、高校生と関われるオープンキャンパス、高校内ガイダンス等は、保育の魅力や本学での学びを直接伝えられるチャンスと捉えている。入学者選抜についても、高校生がそれぞれの良さが発揮できるよう、方法の改善をしている。引き続き、工夫や改善を重ねたい。
(2)カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果と卒業の認定について １．適切である ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに基づいた教育課程が編成され、授業評価や学修成果を踏まえながら組織的な改善が図られている。資格取得に必要な専門的な学びに加え、実習やキャリア支援などを通して、保育現場につながる実践的な学びが充実していると思われる。	幼稚園教諭二種免許状、保育士資格を課程認定するため、免許・資格の取得や卒業認定は厳格に行っている。入学時の基礎学力、学修成果は２極化しているため、各教員が授業方法の工夫を重ね、公開授業や授業評価アンケートなどの機会に振り返りや改善を行っている。今後も各教員個人としても学科としても工夫を重ねたい。
（３）本学の教育活動全般について １．適切である 大学内だけで学びを完結させることなく、子どもや地域の人々、保育・教育現場等と関わる機会が積極的に設けられている。地域の中で多様な人と関わりながら学ぶ経験は、専門性と社会性の双方を高める貴重な教育活動となっていると思われる。	学力と同様に、入学前の様々な活動の経験値も２極化しているため、実践力を高めるために経験すべき活動（実習以外）については、継続的に検討を重ねている。引き続き、地域、保育現場と関わりながら、様々な教育活動を実践していきたい。

（4）その他 　1．適切である 就職ガイダンスや園との交流、地域での活動など、学生が在学中から実際の保育・教育現場や地域社会とつながる機会が多く設けられていることを評価したい。今後も大学と地域の保育・教育現場との連携をさらに深めることを期待する。	本学は大学のある愛知県東三河、そして静岡県西部の学生が多く、就職についても地元に就職する学生が殆どである。地域の保育を支える人材の育成という重要な役割を担うため、地域の保育・教育現場との連携は欠かせない。今後もより良い連携を模索していきたい。

2026(令和 8)年度 豊橋創造大学短期大学部 有識者による外部評価とそれに対する所見・対応等

■キャリアプランニング科

外部評価者：豊橋商工会議所　ビジネスサポートセンター長

外部評価における意見・提言等	外部評価を受けての学科（科）の所見及び対応等
（1）入学者の受け入れについて 貴学の 9 割を超える学生が豊橋を中心に東三河、静岡西遠地区の出身である。今後も、さらに卒業生の活躍実績（特に地元企業との密着性など）を露出させる、また実践的なプログラムを開催し、地域一体となった入学者へのアプローチができるとよい。	地域総合科学科としての目指すべき方向性をご理解・ご指摘頂いている。地域性を活かした教育及びその成果は重要な差別化要因であり、公務員（事務職）や病院事務職への就職実績は、本科の強みでもある。引き続き、インターンや様々な連携のプログラムを地元産業界と構築し、募集活動に上手く取り込めるような仕組みを築いていきたい。
（2）カリキュラムの内容・学修方法・学修支援・学修成果について ポリシーにあるとおり、社会人基礎力や勤労観などに重きをおき、実務能力の習得や地元企業とのインターンシップによる連携強化を図っている。また豊橋市、商工会議所やサーラグループをはじめとした地元企業との連携も進めており、今後、さらに地域プロジェクト等への参画に期待したい。	日頃より、実践的な教育プログラムや就職・キャリア支援関連の授業計画についてご協力を頂いていることもあり、一定の評価を頂けている。また、正課外での取り組みについても、本科のポリシーをご理解・ご支援を頂いている。今後一層の向上を図る上で、カリキュラムや実践プログラムについて、実務家との細部に渡る意見交換が必要である。既に、キャリア関連授業でのゲスト・スピーカーやプロジェクト関係者からのご指摘等に基づきカリキュラムの改善等を行っている。引き続き、これらの交流から改善活動を継続する。
（3）本学の教育活動全般について 少子化の中で、短期大学の差別化が難しい中、勤労観、就業を意識し、地元企業や地域社会に役立つ実践的な教育をポリシーに掲げながら活動を行っている。特に高大連携事業として、高等学校への出前授業の形態で、医療事務、公務員、一般事務員といった職業を紹介する等、職業観の醸成にも力を入れている。	地元密着型の短期大学部として評価を頂けている点は、地域総合科学科としての本科教育活動が、地域の多様なニーズに応えられているものと判断する。引き続き、地元企業と地域産業の発展・振興に貢献できるように、情報集活動なども密に行いながら、教育活動を行っていく。その上で、多様化する学生ニーズに応えながら、カリキュラム、履修形態など、満足度を高められるよう、更なる改善に努めていく。